

令和7年度 事業報告

社会福祉法人川崎ふれあいの会

【1】法人本部 事業報告

【事業目的】

当事者が地域社会で一人の市民として、生き活きと楽しく生活できるよう当事者の人権や自己決定を大切に、だれもが暮らしやすさと安心を感じられる地域作りに努めました。

【事業方針】

無理をせず、あせらず、豊かな気持ちで精神保健福祉に取り組み、地域生活支援システムの充実に努めました。

【目標の振り返り】

令和7年度の法人の重点目標である、

- ① 組織図改変着手する / ② 事業所担当理事を置き、職員の主体的取り組みを後押しする、を達成すべく法人運営に努めました。

【令和7年の振り返り】

令和7年度は、S 理事が9月末退職に伴い退任され、新たに M 理事を迎え、法人を運営してまいりました。事業所運営にあたり、グリーンふれあいでは U 理事、オレンジふれあいでは Y 理事に引き続きご担当いただき助言してもらいました。

サービス管理責任者の育成は順調に進み、2名の職員が資格を取得いたしました。

財政運営状況は、各事業所職員が業務の効率化を図ろうと業務見直しに努力しています。結果、令和6年度に続き現状維持に留まりました。

特筆すべき点として、これまでと比して職員が主体性をもって事業に関わってくれていることです。常勤職員と理事との意見交換会を通じて職員から意見を吸い上げるような取り組みにつながっています。

【理事長の執行状況】

3月7日	理事会、事務局ミーティング	9月29日	三井住友カード変更手続き
3月15日	非常勤職員雇用契約	10月3日	常勤採用面接
3月18日	GHスタッフ会議（ZOOM）	10月10日	ふれあい各事務所訪問
3月28日	非常勤職員面接・年度末事務処理	10月23日	常勤採用面接
4月18日	事務局MT、ゆうちょ電子決済手続	10月31日	事務局ミーティング
5月2日	監事監査	11月12日	常勤職員面接
5月23日	理事会、事務局ミーティング	11月18日	常勤職員採用検討
6月10日	社労士と規程改正打合せ①	11月25日	役員・常勤職員意見交換会
6月13日	事務局ミーティング、 選任・解任委員会、評議員会	11月28日	事務局ミーティング
6月26日	職員面談	12月5日	理事会
7月2日	事務局ミーティング（ZOOM）	12月23日	役員・常勤職員意見交換会
7月4日	法人運営会議	12月26日	事務局打合せ（TEL）
7月23日	法人事業の在り方検討打合せ	1月23日	事務局MT・法人運営会議 役員・常勤職員意見交換会
8月7日	横浜信用金庫口座解約手続き、 事務局ミーティング	2月27日	事務局会ミーティング
		3月6日	理事会

8月21日	職員採用、人事等打合せ	3月18日	事務局ミーティング
8月26日	就業規程改正打合せ(ZOOM)	4月24日	事務局会ミーティング
8月28日	非常勤職員面談ほか	5月8日	監事監査
9月11日	社労士との打ち合わせ(ZOOM)	5月22日	ホームページ修正打合せ
9月19日	非常勤職員面談	5月29日	理事会

【理事の執行状況】

理事会	5月23日、6月13日、8月22日、12月5日、3月6日
法人運営会議	12月23日、1月23日、2月13日
オレンジふれあい	担当:Y理事 管理者:常勤職員 スタッフ会議(月1回)
グリーンふれあい	担当:U理事 スタッフ会議(月1回)

【研修】

(1) NPO 法人自立支援センターふるさとの会見学

日程:令和7年7月16日(水)15:00~17:00 場所:ふるさとの会事業所

内容:通過型グループホームの支援活動等の見学 出席:ホーム常勤職員2名

(2) 地域連携推進会議(グリーンふれあい)

日程:令和7年11月14日(金)14:00~15:30 場所:ハイツヘルシー305

内容:事業所概要報告、利用者の状況、地域との関わり、今後の地域連携推進会議について
意見交換、施設見学

出席:入居者代表、入居者家族代表、地域関係者(相談支援事業所)、グリーンふれあい職員3名

(3) 立川防災会及び川崎ふれあいの会交流会

日程:11月26日 参加者:職員6名 利用者:16名

(4) 感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止等に関する取り組み研修 実施:8月、12月

(5) 身体拘束等の適正化及び障害者虐待防止研修 実施:11月 / 外部研修 実施:10月14日

(6) 精神障害者の生活支援、相談支援について 日時:令和7年10月20日(月)14:00~15:00

【事業概要】

障害者総合支援法のもと、就労継続支援 B 型「オレンジふれあい」、グループホーム「グリーンふれあい」を事業展開しました。

法人本部	
職員氏名	常勤職員(事務局長)随時 非常勤職員(事務局員)随時

【令和7年度職員異動状況】

① 入職:常勤職員:12月1日(1名)、2月1日(1名) / 入職:非常勤職員:10月1日(2名)

② 退職:常勤職員:9月30日(1名)、1月13日(1名)

非常勤職員:4月30日(1名)、8月31日(1名)、9月30日(2名)、12月31日(1名)

【活動状況】

(1) 理事会・評議員会

令和7年5月23日、6月13日、8月22日、12月5日、3月6日に理事会を開催しました。

令和7年6月13日、8月22日に評議員会を開催しました。

(2) 監事監査

令和7年5月2日、令和6年度事業及び決算について監事監査を行いました。

(3) 職員の資質向上

各種研修会等への職員の参加機会を持ち、業務・援助の向上を図りました。

各事業所スタッフ会議を恒常的に開催しました。

(4) 苦情解決への取組み

利用者からの苦情に適切に対応するため、各事業所に苦情解決責任者、苦情受付担当者を任命し、苦情受付BOXを設置しました。

オレンジふれあい	苦情解決責任者 苦情受付担当者	常勤職員 常勤職員
グリーンふれあい	苦情解決責任者 苦情受付担当者 苦情受付担当者 苦情受付担当者	常勤職員 常勤職員(グリーンふれあい) 常勤職員(グリーンふれあいⅡ) 常勤職員(あしびな、あしびなⅡ)

(5) 地域連携

各連絡会への加盟や会議へ出席し、地域連携に取り組みました。

社会福祉法人幸ヒューマンネットワーク	評議員:職員1名派遣。(評議員会へ出席)
中原地区精神保健福祉連絡会 (なかはら会)	職員2名派遣 日帰りバスハイク:10月17日 参加者:職員2名、入居者8名 交流会:12月19日 参加者:職員2名、入居者1名 アロマセラピー:3月17日

(6) 神奈川県・川崎市・法務局等への届け出経過

- ☐ 4月3日(木) 令和7年度福祉・介護職員処遇改善交付金処遇改善計画書を川崎市に提出
- ☐ 4月3日(木) 福祉人材確保・職場環境改善事業補助金申請書を川崎市に提出
- ☐ 4月4日(金) 令和7年度体制届を川崎市に提出(オレンジ・グリーン)
- ☐ 4月4日(金) 令和7年度運営規程の変更届を川崎市に提出(オレンジ)
- ☐ 4月7日(月) 令和6年度運営費補助金精算書を川崎市に提出(グリーン)
- ☐ 7月2日(水) 令和7年度川崎市介護・障害福祉サービス事業所等物価高騰対策支援給付交付申請書を川崎市に提出(グリーンふれあい)
- ☐ 7月8日(火) 令和7年度川崎市介護・障害福祉サービス事業所等物価高騰対策支援給付交付申請書を川崎市に提出(オレンジふれあい)
- ☐ 8月22日(金) 令和7年度 第3回理事会(決議の省略による)
- ☐ 8月26日(火) 令和7年度 第2回評議員会(決議の省略による)
- ☐ 9月8日～9月9日 源泉所得税立入調査(川崎北税務署)
- ☐ 10月14日付 障害者虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第19条による調査結果通知 収受
- ☐ 12月10日(土) 実務経験証明書及び変更届を川崎市に提出(オレンジふれあい)
- ☐ 2月5日(木) 実務経験証明書を川崎市に提出

【2】オレンジふれあい 事業報告

【事業目的】

「オレンジふれあいの仕事や活動を通し、利用者が自分の能力を発揮し、地域社会で自立した日常生活ができるように支援する」という事業目的に沿って、主として精神障がい者を対象に事業を行った。

【事業方針】

令和7年度の事業方針に沿い、利用者の意思及び人権を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めた。

【目標の振り返り】

① 充実したサービス提供ができるよう作業の拡充を目指す。

→様々な障がいを持つ方が充実した時間を過ごせるよう作業の見直しを行い、利用者それぞれの力量を踏まえ、自身の能力でできることをより増やしていけるようサポートしながら作業内容の充実を図った。利用者ミーティング、手芸ミーティングで出た意見を尊重し取り入れ、納得のできる環境づくりを進めた。

② 在宅就労支援を取り入れ個々の状況及びニーズに合った幅広い支援を提供する。

→4月から5名在宅就労支援実施。それぞれ通所日を増やし、体調不良等で通所できない日には在宅で作業することができた。それぞれの特性に加え、その日のコンディションに配慮し作業を提供できるよう、通所日に振り返り、作業内容の相談を行った。

③ 職員を事業所内に集約することで、土日祝日に開所しやすい体制を整える。

→令和7年度は土日祝日年間21日開所。自主製作日や映画鑑賞、レク等を企画。想定していたより利用数が伸びず、利用者の意見も取り入れながら内容の見直しを行った。

④ 職員を事業所内に集約することで、新規利用者募集他、運営に資する人員を確保する体制を整える。

→職員が1か所に集まることで、利用者の状況や日々の業務内容をそれぞれ把握しやすくなった。新規利用者募集のためリタリコ仕事ナビを利用。工賃向上に向け研修会に参加し、商品開発、販路拡大への取組みも進めている。

⑤ 面接等相談の機会を設け、安定して通所できるよう支援を行う。

→利用者の日々の様子を観察し、体調に配慮しながら面接を実施した。必要に応じて関係支援にも連絡し、密な連携をとった。また、利用者本人から面接の希望があった時は、可能な限り速やかに対応した。面接内容はスタッフ会議、支援記録などにより共有し、よりよい支援が出来るよう努めた。

⑥ 利用者ごとに個別支援計画を立て、目標に沿った支援・作業援助を行う。

→利用者やご家族の意見を聞き取り、一人ひとりの状況や目標に合わせた支援課題を設定。関係機関とも計画書の内容について検討を行い、利用者の意思、主体性を尊重した個別支援計画を作成した。適切な支援を行えるよう、必要に応じて、最低でも半年に一度は計画の見直しを行い、毎日の申し送りや月に1回のスタッフ会議内で目標に沿った支援について確認及び共有を行った。

【事業概要】

事業所名	オレンジふれあい	定員:20名
サービスの種類	就労継続支援B型事業	
開所日・時間	月曜日～金曜日 9時～17時 <祝日・年末年始を除く>	
職員氏名 及び 勤務形態	常勤職員(管理者)<常勤・兼務> 常勤職員(サービス管理責任者)<常勤・兼務>(R8.12.1～兼務) 常勤職員(生活支援員・調理員)<常勤> 非常勤職員(職業指導員)<非常勤>	

	非常勤職員(目標工賃達成指導員) 非常勤職員(職業指導員)～R7.9) 非常勤職員(職業指導員)(～R7.9) 非常勤職員(職業指導員)(R7.10～R7.12) 非常勤職員(目標工賃達成指導員)(R7.10～)
ボランティア	ボランティア 3 名(水曜日 1 名、火・木曜日 1 名、在宅 1 名)

【事業活動状況】

- ① 令和 7 年度内の新登録者及び退所者:新規登録者 5 名、退所者 4 名
令和 8 年 3 月 31 日現在登録者 女性 11 名、男性 6 名 計 17 名
- ② 登録者平均年齢: 49.1 歳(令和 8 年 3 月 31 日現在)
- ③ 開所日数及び利用者数

【令和7年度】									
各月の状況		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
①開所日数		23 日	22 日	23 日	24 日	24 日	22 日		
②事業所内利用者数		209 人	216 人	236 人	207 人	204 人	222 人		
③施設外就労利用者数		17 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人		
④総延べ利用者数		226 人	216 人	236 人	207 人	204 人	222 人		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度		(参考)令和6年度	
24 日	19 日	21 日	20 日	19 日	22 日	263 日	249 日		
249 人	207 人	220 人	193 人	202 人	225 人	2590 人	1937 人		
0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	17 人	242 人		
249 人	207 人	220 人	193 人	202 人	225 人	2607 人	2179 人		
平均利用人数						9.9 人	8.8 人		

* 令和 7 年度事業計画:開所見込み日数 272 日、利用者延人数目標 2,900 人

④ 事業内容及び活動報告

<事業活動状況>

内 容	令和 7 年度実施状況
月～金曜日のプログラム	<店舗営業> 月～金(10:00～17:00) 祝日・年末年始を除く <作業内容> ① 手芸作業:エプロン類・ポーチ類、バッグ、ぬいぐるみ等の布製品作成 ② 内職作業:請負作業(荷札・筆記具組立)、ビーズ小物製品作成 ③ 施設外就労(～4 月末):洗濯作業 月・火・水・木(9:30～12:00) <メンバーミーティング> 月に 1 回利用者ミーティングや利用者打合せを行った。 <バザー参加> 5、6、8、9、10、11、12、3月の11回参加した。(令和6年度7回)
レクリエーション等の提供	<茶話会> 4、6、7、9、11、3月に茶話会を行った。 <食事会等> 6、8、9、10、11、12、1、2、3月に外出レク、食事会、調理等を行った。 <自主製作> 4、5、6、7月にワークショップ等の活動を行った。 <映画鑑賞> 4、5、7月にオレンジ内で映画鑑賞会を行った。
個別支援計画及び関係期間との連携	利用者の長期・短期目標を設定するにあたりアセスメントを実施し、利用者と共に個別支援計画の作成を行った。また、6 カ月ごとにモニタリングを実施し計画の見直しを行った。担当者会議では相談支援センターや役所の担当者、ご家族等にも同席いただくことで、支援者間での役割の明確化や支援の方法を多岐にわたり検討することができた。

会議・委員会 及び研修他	<u>＜法人運営会議＞</u> 開催日：令和7年7月4日、令和7年12月23日、令和8年1月23日、令和8年2月13日 法人で検討すべき事項や、グループホーム、就労Bのそれぞれの運営について主に検討した。 <u>＜スタッフ会議＞</u> 職員間で事業活動、就労活動及び利用者の状況について月に1度話し合った。作業をはじめとした情報共有や利用者への支援の在り方等を話し合う場となった。 <u>＜感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止等に関する取り組み＞</u> ●責任者(松下あゆみ) ●感染症対策委員会 開催日：4/22、7/18、10/17、1/16 ●研修会 ① 令和7年8月 感染症BCPの基礎知識、必要性について学ぶ ② 令和7年12月 感染症・食中毒についての基礎知識、予防について学ぶ ●訓練 ① 机上訓練 令和7年9月、令和8年1月 感染症発生シミュレーション <u>＜身体拘束等の適正化＞</u> ●身体拘束廃止適正化委員会 委員長(塩釜真緒) 開催日：令和7年5月23日第一回委員会を開催。年間計画、研修について確認。 令和7年11月21日第二回委員会を開催。来年度年間計画について確認。 ●研修会 令和7年11月 障害者虐待防止及び身体拘束適正化について <u>＜障害者虐待防止＞</u> ●責任者(松下あゆみ) ●虐待防止窓口担当者(野中裕子) ●虐待防止委員会 委員長(栗原繁) 開催日：令和7年5月23日 年間計画、研修、虐待発生・発見した場合の対応等について確認。虐待防止資料配布。セルフチェック実施。 令和7年11月21日 来年度年間計画について確認。セルフチェック実施。 ●研修会 令和7年11月 障害者虐待防止及び身体拘束適正化について <u>＜災害に備える＞</u> ●消防立ち入り検査、設置業者による消防機器の点検は通常通り行なわれた。 ●11月26日利用者9名、職員4名が法人研修に参加。立川防災館にて模擬消火器を使用した消火訓練、VRによる地震体験、煙体験室での避難訓練を行った。臨場感あふれる体験型訓練によって、防災意識を高めることができた。
令和7年度事業活動状況振り返りと今後の活動について	令和7年度は施設外就労が終了し職員が1か所に集まることで柔軟な動きが可能となった。土日祝日開所は年間21日。目標の利用者数には届かなかったが、ワークショップや調理等に取り組み、利用者へ余暇を提供するいい機会となった。バザーは11回参加。横浜や武蔵小杉等、初めてのバザーに参加することができた。新しい取り組みとして食事提供、在宅就労支援を開始。栄養バランスの取れた食事を提供し、利用者の健康的な食生活をサポート。在宅就労は通所することの負担が減ることにより利用日数が増え、より充実したプログラムを提供することができた。今年度の新規契約は5名。リタリコ仕事ナビは問い合わせは数件あったが見学

	まで繋がったのは1件だった。平均利用者数は令和6年度より1.1名の増加となった。冬季は例年身体的・精神的に体調が不安定になる利用者が増え利用数が落ち込むため、日々の利用者の様子を観察し、不調の傾向を事前に察知しフォローを行うなど、適切な支援・援助を職員間で連携をとりながら行う必要がある。安定した運営のため、HP や SNS の活用、関係機関への営業を行い新規利用者獲得を目指すことも必要であると考えます。
--	--

<就労活動状況>

① 就労支援事業収支状況

手 芸 収 入			前年度比		内 職 収 入			前年度比
売 上					売 上			
店舗	318,240	△ 14,430			店舗	19,550	2,400	
バザー	277,250	45,280			バザー	63,550	31,570	
下請売上	115,018	115,018			下請売上	396,482	22,504	
合計	710,508	141,968			施設外売上	80,000	△ 385,000	
					合計	559,582	△ 328,526	
手 芸 支 出			前年度比		内 職 支 出			前年度比
材料	119,189	△ 31,263			材料	4,851	△ 23,737	
工賃	586,415	145,705			工賃			
その他	44,118	23,004			自主製品	167,362	28,379	
合計	749,722	137,446			下請け	563,868	△ 76,839	
					その他	10,790	△ 10,788	
					合計	746,871	△ 82,985	

② 令和7年度就労支援事業活動状況振り返りと今後の活動について

手芸:

前年度に比べ、店舗売上は 14,430 円減、バザー売上は 45,280 円増となった。これは多数のお客様への販売機会があるバザー出店に注力することで、バザーの売上は上がった一方、店舗にある在庫が限られてしまい、店舗での売上に繋がらなかったからだと考える。そのため、バザー出店用の商品製造だけでなく、エプロン等の店舗主力商品を利用者間で分業を行い、全体的な製造の効率化、在庫の増加を図っていく。
また合同会社肩車、WAcKAとの繋がりにより、新しい仕事の受注が増え 10 万以上の売上に繋がった。試作から行い実際に商品化することで、利用者のモチベーション・技術向上になったと考える。

内職(ビーズ小物製品):

令和 7 年度の売上は店舗・バザーあわせて 83,100 円となり、令和 6 年度より 33,970 円増となった。店舗は微増、バザーは倍増。地元平間銀座のサマーフェスタに毎土曜日参加したことが売上アップに繋がったと考えられる。8月のサマーフェスタではフェイスシール(¥100)やシェルブレスレット(¥100)等新たな試みが子供たちに人気で合計 21,300 円と大きな売上になっていた。くす玉、仔ブタはよく売れるため、今後もビーズ製品の目玉として作製できる利用者を増やしていきたい。

内職(請負作業):

令和6年度も筆記具の組立作業、荷札の制作作業を行った。
(筆記具組み立て作業)取引先との調整を密に行いながら受注数を決定した。利用者が欠席した際は職員介入も行った。単価の高い作業は令和 6 年同様程度となり、受注量を増やして大きな増収に繋げていくことは難しかった。
(荷札)単価は 0.7 円と変わらず、就労支援事業収入には貢献できなかったが、利用者誰でもできる作業であること、隙間時間にできる作業であることなど作業提供において役割は大きい。今年度は職員が車を使用し納品、受取に行くことで作業効率を上げた。令和 8 年度は荷札に代わる作業についても検討していく。

【3】グリーンふれあい 事業報告

【事業目的】

地域で生活することを希望する障害者に対して指定共同生活援助事業を提供し、相談、その他日常生活に必要な援助等を行うことにより、入居者の地域生活を支援し、自立と社会参加を促進した。なお、主として精神障害者を対象に事業を行った。

【事業方針】

令和7年度の事業方針に従い入居者の人権を尊重し、入居者の立場に立ったサービスの提供に努めた。

【重点目標の振り返り】

- ① 非常勤職員時間が短くなるため、物理的に不可能な場合を除き、夕食は基本一斉スタートを徹底する。
→夕食の一斉スタートは概ね実施できている。一方でホームによっては二部制を導入し状況に応じた運用を開始した。
- ② 各共同生活住居での、ミーティングやフリースペース解放、レク活動等の場面提供方法を学び合い、3共同生活住居合同でのレク活動等、今後の活動について検討していく。
→各ホームごとにミーティングやフリースペース開放を行い、取り組みの共有を行った。
また、令和7年度は合同でバス外出による交流会を実施し、令和8年度も交流会の機会について検討している。
- ③ 共同生活をしながら、入居者ひとりひとりの希望や状況に合わせて支援内容を考え、個々の生活に沿った目標のための支援を行う。
→服薬確認、受診・買い物等外出同行、夕食提供等、個々の状況・目標に合わせて柔軟に対応を行なった。
- ④ 入居者が日中活動の場へ参加できるよう支援する。
→入居者の通所状況を確認し、通所出来ていない入居者には通所可能な場所を新たに一緒に考える等の支援を行った。
- ⑤ グループホームから一人暮らしへ移行するための支援プログラムについて学び、今後の支援に活かす。
→グループホームから一人暮らしへの移行支援プログラムについて、他法人の施設見学を通じて支援方法を学んだ。その内容を会議で共有し、現在は今後の支援への活用に向けて検討を進めてる。
- ⑥ 空き室を減らすよう全体で取り組む。
→各関係機関へ連絡を行い、施設見学の受け入れを実施、空室期間が生じないよう継続的に取り組んだ。

【事業概要】

事業所名	グリーンふれあい	定 員	定員:24名
サービスの種類	共同生活援助事業(グループホーム)		
共同生活住居	●グリーンふれあい(定員9名) ●グリーンふれあいⅡ(定員5名) ●あしびな(定員5名) ●あしびなⅡ(定員5名)		
サービス提供日	令和7年4月1日～令和8年3月31日(365日)		
利用人数	8,103 人(区分2:4,025 人、区分3:3,700 人、区分4:378 人) ＜前年度(令和6年度):7,893 人(210 人増)＞ (内訳 グリーンふれあい:3,177 人、グリーンふれあいⅡ:1,463 人、 あしびな:1,667 人、あしびなⅡ:1,796 人)		
職員氏名 及び	常勤職員(管理者・世話人) 常勤職員(サービス管理責任者・世話人)		

勤務形態	常勤職員(サービス管理責任者・世話人)(～R7.9.30) 常勤職員(サービス管理責任者)(R7.12.1～兼務) 常勤職員(世話人・生活支援員)(R7.12.1～R8.1.13) 常勤職員(世話人)(R8.2.1～) 常勤職員(世話人) 非常勤職員(世話人) 非常勤職員(世話人) 非常勤職員(世話人) 非常勤職員(生活支援員)(～R7.8.31) 非常勤職員(生活支援員)(～R7.4.30) 非常勤職員(世話人)
------	---

【活動状況】

＜共同生活住居①グリーンふれあい＞川崎市幸区東古市場18－13 コフレイスト205号室

① 令和7年度内の入退去者：新入居者1名(自宅より1名)、退去者0名

(令和8年3月31日現在:男性5名、女性4名入居)

② 入居者平均年齢：50.8歳(令和8年3月31日現在)

③ 居室の稼働率(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト	コフレイスト
101	102	103	104	105	201	202	203	204
100%	100%	100%	100%	71% 7/15 入居	99% 外泊	100%	99% 外泊	100%

＜共同生活住居②グリーンふれあいⅡ＞川崎市中原区上平間1700－146 ルナハイツ101号室

① 令和7年度内の入退去者：新入居者3名(自宅より2名、病院より1名)、

退去者1名(自宅へ戻り1名)

(令和8年3月31日現在:男性3名、女性2名入居)

② 入居者平均年齢：42.6歳(令和8年3月31日現在)

③ 居室の稼働率(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

ルナハイツ	ルナハイツ	ルナハイツ	ルナハイツ	ルナハイツ
201	203	301	401	402
36% 11/21 入居	99% 外泊	100%	65% 5/9 入居～5/31 退去、8/13 入居	100%

＜共同生活住居③あしびな＞川崎市中原区丸子通1－634 ハイツヘルシー101

① 令和7年度内の入退去者：新入居者1名(自宅より)、退去者1名

(令和7年3月31日現在:男性4名:女性1名入居)

② 入居者平均年齢:平均 45歳(令和8年3月31日現在)

③ 居室の稼働率(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

ハイツヘルシー	ハイツヘルシー	ハイツヘルシー	ハイツヘルシー	ハイツヘルシー
103	105	201	202	203
100%	99% 外泊	100%	58% 11/27 退去、1/27 入居	99% 外泊

＜共同生活住居④あしびなⅡ＞川崎市中原区丸子通1－634 ハイツヘルシー305

① 令和7年度内の入退去者：新入居者0名、退去者0名

(令和8年3月31日現在:男性1名:女性4名入居)

② 入居者平均年齢:平均38歳(令和8年3月31日現在)

③ 居室の稼働率(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

ハイツヘルシー 301	ハイツヘルシー 303	ハイツヘルシー 401	ハイツヘルシー 403	ハイツヘルシー 503
96% 外泊	100%	100%	96% 外泊	100%

④ 事業内容及び活動報告

内 容	令和 7 年度実施状況			
日常生活支援	＊個々の状況に合わせ、サポート内容や頻度を調整し対応した。			
	同行・代行: 必要に応じて役所や受診、買い物等の同行や代行支援を行った。			
	当番: 各入居者が役割をもち、一方的な支援でなく、入居者がホームの一員として参加する形で支援を提供するよう心がけた。			
	入居者同士が挨拶や会話をする事で交流も深まり、災害などがあった時に、お互いが助け合う事が出来るよう支援を行った。夕食当番も再開し、調理から盛り付けまで、一人暮らしをしても困らないよう支援を行った。			
	健康管理: 年 1 回健康診断を受けることとし、必要に応じた支援を行った。			
	日中活動支援: 日中活動先の職員と連携を取りながら、日中の様子を確認、また日中活動の利用を支援した。通所が滞っている入居者には、入居者に沿った日中活動先と一緒に考え、新たな通所先を探す支援を行った。			
	服薬支援: 服薬確認のほか、必要に応じて薬のセットや調剤薬局同行を行った。			
食事の提供	ミーティング: 毎月の連絡事項の他、ホーム内でのルール等入居者同士で話し合う場面を提供した。災害時等、お互いが助け合うことができるよう、顔のわかる関係づくりを意識的に行った。			
	相談支援: 食堂をフリースペース開放する時間を設け、その中で支援をする他、個別相談についてはフリースペース開放時間の前後に予約して支援を行った。			
	●祝日を含む月曜から日曜 365 日、夕食を提供した。()内は令和 6 年度実績			
		グリーンふれあい	グリーンふれあいⅡ	あしびな・あしびなⅡ
	入居者	1,380 食(1461 食)	931 食(1,111 食)	1, 778 食(2,223 食)
	職員等	51 食(166 食)	187 食(456 食)	0食(0食)
	合計食数	1,431 食(1627 食)	1,118 食(1,567 食)	1, 778 食(2,223 食)
個別支援計画及び関係期間との連携	●食堂で一緒に食べることを基本としたが、発熱等の感染症や個々の症状により個別に居室で摂る対応を行った。			
	半年に1回モニタリングを行い、振り返りや今後の目標について検討し、個別支援計画の作成を行った。個別支援会議は、入居者同席のもと行い、意思決定支援に努めた。また相談支援センターや日中活動先の担当者等にも同席いただくことで、支援者間でホームで行う支援について明確にするよう心掛けた。			

会議・委員会 及び研修他	<u>＜法人運営会議＞</u> 開催日：令和 7 年 7 月 4 日、令和 8 年 1 月 23 日、令和 8 年 2 月 13 日 グループホーム運営会議から派生し、令和 6 年 7 月から開催した。法人全体で検討すべき事項や、グループホーム、就労 B のそれぞれの運営について主に検討した。 <u>＜役員・職員意見交換会＞</u> 開催日：令和 7 年 11 月 25 日、令和 7 年 12 月 23 日、令和 8 年 1 月 23 日 令和 8 年 2 月 13 日、令和 8 年 3 月 6 日 今後の事業運営について検討していくにあたり、役員と常勤職員との意見交換の場を設けた。まずは、現場で困っていることを出し合い、そこをどうしていくかを重点的に話し合った。 <u>＜スタッフ会議＞</u> 開催日：4/21、5/19、6/17、7/14、8/18、9/24、10/20、11/25、12/23、1/20、2/17、3/17 4 つの共同生活住居合同で活動及び入居者の状況について月に 1 度話し合った。 <u>＜感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止等に関する取り組み＞</u> ●責任者(M 常勤職員) ●感染症対策委員会 開催日：6/17、9/24、12/23、3/17 ●研修会 ③ 令和 7 年 8 月 感染症対策指針、感染症マニュアル、感染症に対する業務継続を理解する ④ 令和 7 年 12 月 感染症及び食中毒まん延予防について、基礎知識を学ぶ ●訓練 ② 机上訓練 令和 7 年 10 月 新型コロナウイルス感染症 感染者発生シミュレーション 問 1 ～ 問 3 ③ 机上訓練 令和 8 年 1 月 新型コロナウイルス感染症 感染者発生シミュレーション 問 4 ～ 問 5 <u>＜身体拘束等の適正化＞</u> ●身体拘束廃止適正化委員会 委員長(西川真理子) 開催日：令和 7 年 7 月 14 日 スタッフ会議と同日に委員会を開催。主に研修内容について検討した。 ●研修会 令和 7 年 11 月 日本ケアコミュニケーションズ・・・身体拘束等の適正化のための研修 介護施設・事業所等で働く方への身体拘束廃止・防止の手引き <u>＜障害者虐待防止＞</u>
-------------------------	---

●責任者(松尾浩子) ●虐待防止窓口担当者(西川真理子)

●虐待防止委員会 委員長(塩田桂子)

開催日:令和7年7月14日虐待防止資料を配布し担当窓口を周知。研修内容について検討した。

●研修会:令和7年11月

日本精神科病院協会・・・虐待防止研修

●職員セルフチェック実施:令和7年12月

＜障がい福祉現場でのハラスメント対策＞

●公開勉強会 令和8年1月

カスハラ・パワハラ・セクハラを防ぐ職場づくりの実践ポイント

＜災害に備える＞

●令和7年11月26日に福祉バスで立川防災館へ行き、防災体験を行った。

(職員3名、入居者10名)

●消防立ち入り検査、設置業者による消防機器の点検は通常通り行なわれた。

●一次持出品の確認、非常食や水等の備蓄品のリストを作成し、各入居者が準備をする物、事務所に備蓄している物を周知。

●グリーン:10月30日夜間に災害が発生した場合を想定し、避難訓練を実施した。懐中電灯を使用し、避難場所である高校まで徒歩で避難経路の確認を行った。入居者9名・職員2名参加

11月中、非常食の賞味期限の確認と入居者持出袋の中身の確認を行った。

●グリーンⅡ:実施なし。

●あしびな・あしびなⅡ:10月23日夜間に災害が発生した場合を想定し、避難訓練を実施した。懐中電灯を使用し、避難場所である小学校まで徒歩で避難経路の確認を行った。入居者9名・職員2名参加

●業務継続計画を作成し、災害に備えた。

●非常災害対策計画及び避難確保計画を一体化して作成し周知し、災害に備えた。